

## テーブルの上の庭

「あるもの」が置かれている

たとえばテーブルの上にカップがあるとする  
それは僕が置いたものだから、  
そこにあることはわかっているけれど  
改めてそれを目にし、それを認める

そのまわりに散らばる様々なもの  
それら雑多なもの  
そのものから、誰が置いたのかおおむねわかる  
意識的に置かれたものではなく  
次々と  
無意識に置かれてきたもの等

それらのもの等は  
何らかの関係を結んでいるように見える

まるで  
龍安寺の石庭のように  
何かしらの秘密を共有しながら  
しかも  
それぞれがそれぞれであり  
お互いそっぽを向き合っているのだけれど

僕はこれから  
それを片付けなければならない  
なんとも困難な仕事をやらなければならない

僕は秩序を嫌悪している

テーブルクロスを一気に引く  
そして、それを洗濯するにとどめた

(2008.1.30)